

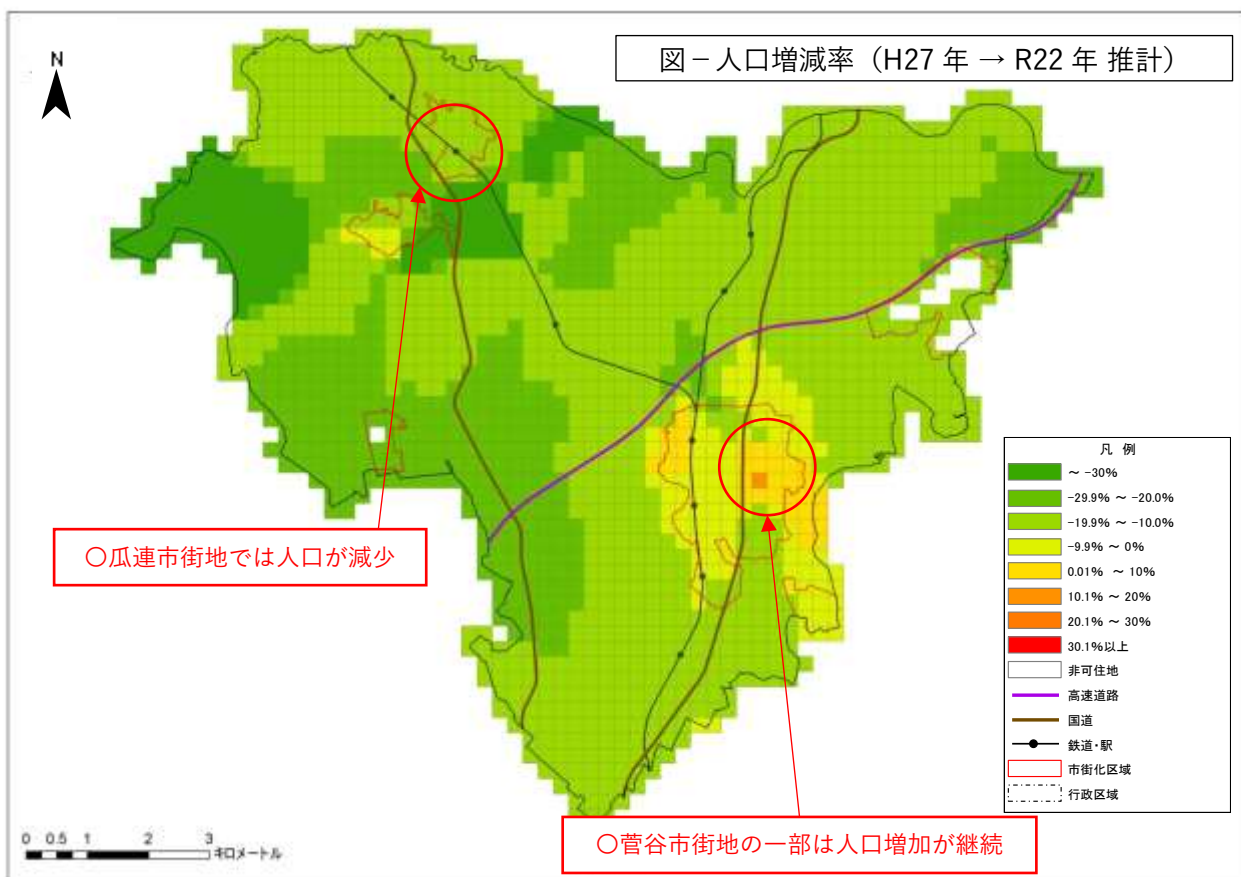
## Ⅱ-1 人口構造の変化による影響

### 1. 人口減少と高齢化による影響

人口については、全国的な少子化、高齢化に伴い長期的に減少することが予測されています。2020年（令和2年）5月に策定した「第2期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、国立社会保障人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』で、本市の人口は2040年（令和22年）に47,432人になると推計されていることを踏まえ、2040年（令和22年）の人口は48,000人程度と展望しています。

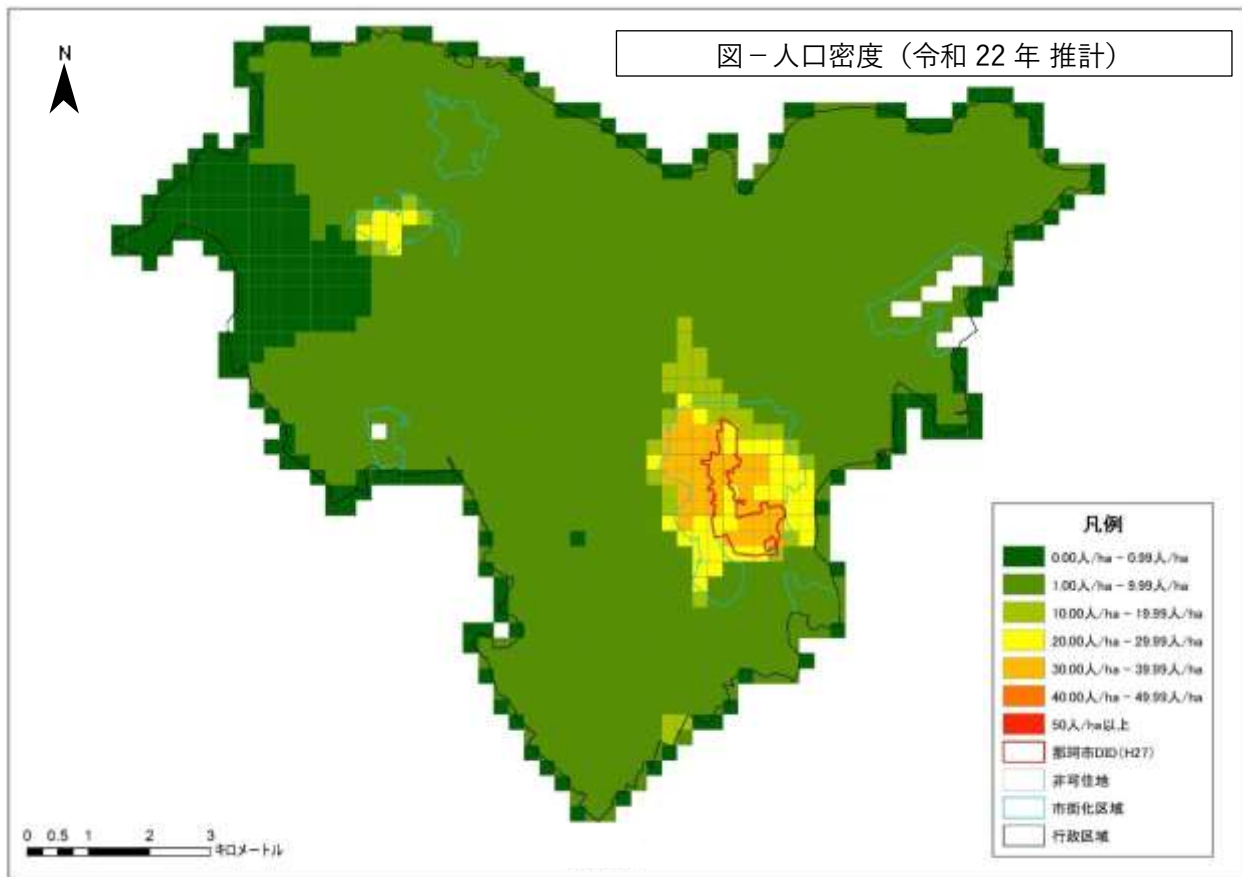
このような中、都市計画において人口集積を図る住居系市街化区域（菅谷市街地、瓜連市街地、平野台地区）でも、減少時期が異なるものの、長期的には人口減少と高齢化が予想されます。

特に人口減少が進行すると予測されるのは瓜連市街地で、2005年（平成17年）から2015年（平成27年）にかけて既に減少局面になっており、2040年（令和22年）にかけても減少が予想されます。また、平野台地区も2040年（令和22年）にかけて本格的に人口減少を示すことが予想されます。一方、菅谷市街地については、2005年（平成17年）から2015年（平成27年）にかけては、増加している区域が多くあるものの、部分的に減少に転じることが予想される区域が発生することが考えられます。



資料) 2015年（平成27年）国勢調査小地域人口  
2040年（令和22年）の推計人口は、国土技術政策総合研究所「小地域（町丁・字）を単位とした将来人口・世帯予測ツールから算出。

以上のような人口減少により、2040年（令和22年）の人口密度を推計すると、菅谷の一部を除き市全体として人口密度は低下すると推計されています。



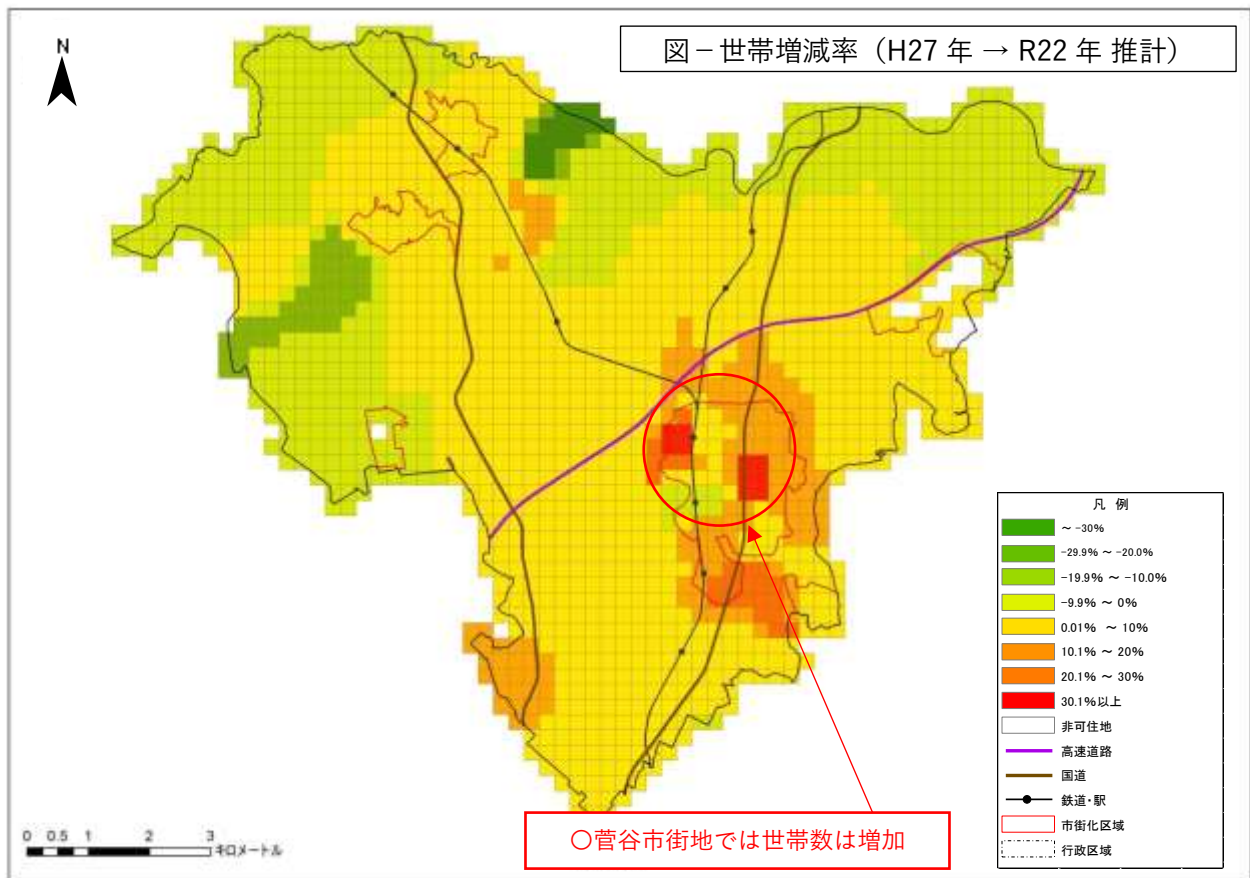
資料) 2040年（令和22年）の推計人口は、国土技術政策総合研究所「小地域（町丁・字）を単位とした将来人口・世帯予測ツールから算出。

## 2. 世帯構造の変化による影響

世帯数については、核家族の増加や一人世帯の増加等により、世帯の小規模化が進行しており、本市においても、2015年（平成27年）の世帯人員は1990年（平成2年）と比べて1世帯あたり約1人少ない2.7人/世帯となっています。

また、晩婚化や未婚の増加による単身や子どものいない世帯の増加、高齢者夫婦のみ、あるいは高齢者独居といった世帯も増加しており、夫婦と子どもという標準世帯が減少する一方で、世帯の多様化が進んでいます。

このようなことにより、従来家庭内で行われてきた子どもや高齢者の見守り、送迎等が困難になるとともに、世帯所得の減少、福祉サービス需要の増加・多様化が進むと考えられます。



資料) 2015年（平成27年）国勢調査小地域人口  
 2040年（令和22年）の推計世帯数は、国土技術政策総合研究所「小地域（町丁・字）を単位とした将来人口・世帯予測ツールから算出。

### 3. 生活の場やライフスタイルの変化に伴う市街地への影響

生活の場やライフスタイルは、前述のような人口減少や高齢化、世帯構造の変化（小家族化）に加え、生活圏域の広域化、女性や高齢者の就業の増加、インターネット購買の成長等により、変化が見られています。

従来は、中心市街地において、商業・業務施設が集積し、これらのニーズを充足していましたが、特に地方では車利用への対応が進み、市街地外縁部や郊外で、複数店舗が集積する規模の大きいショッピングセンター形式の商業施設が主流になっています。

また、仕事と家事の両立を図るため、購買行動も週末や夜間にまとめて購買するという形式が多くなっています。一方、インターネットの利用も増加しています。

このような生活の場やライフスタイルの変化により、市街地に対しては、従来のような機能だけでなく、ライフスタイルの変化に対応した機能の充足が求められます。

#### 女性の働き方に関するニーズ（アンケート結果）

第2期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020年（令和2年）5月）

##### ■今後の働き方の希望

働きたい、働き続けたいと思う方が95.0%。

ほとんどの女性が就業意欲を持つ

今後、新たに働きたい、現在の仕事に関わらず働き続けたいと思えますか。



##### ■テレワークへの関心

テレワークへの関心については、意見は分かれるものの、49.6%の方が関心を示している。

半数がテレワークに関心がある

テレワーク制度に興味・関心がありますか。



資料) 第2期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020年（令和2年）5月）



## Ⅱ-2 那珂市の市街化区域の特性

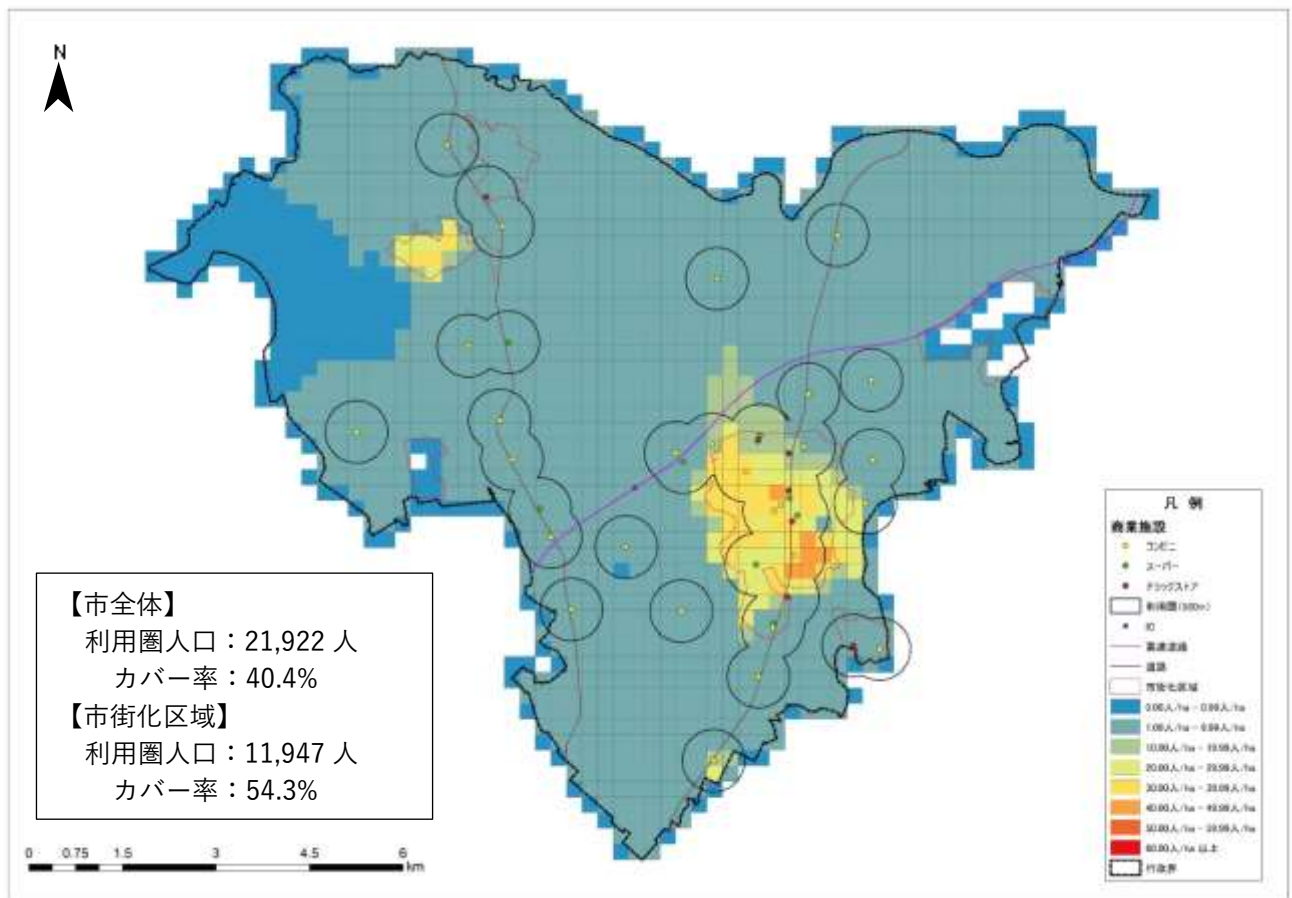
本市には、菅谷、瓜連、平野台という住居系の市街化区域が指定されています。このうち、平野台地区は、計画的に整備された一団の住宅地であり、菅谷、瓜連市街地と異なる形成過程と特性を示しています。

市街化区域の生活利便性については、福祉施設、公共施設を除く生活利便施設で 50%程度のカバー率を示していますが、福祉施設については 33.4%と低くなっており、今後の高齢化の進行に対応した施設整備が求められます。

一方、長期的な人口減少の中で、生活利便施設の維持に対する施策も必要になると考えられます。瓜連地区では、市街化区域内に医療施設や教育・保育施設が立地するものの、既に人口減少を示す状況となっており、地区内に立地する施設の維持に向けた居住者の誘導についても検討が必要と考えられます。

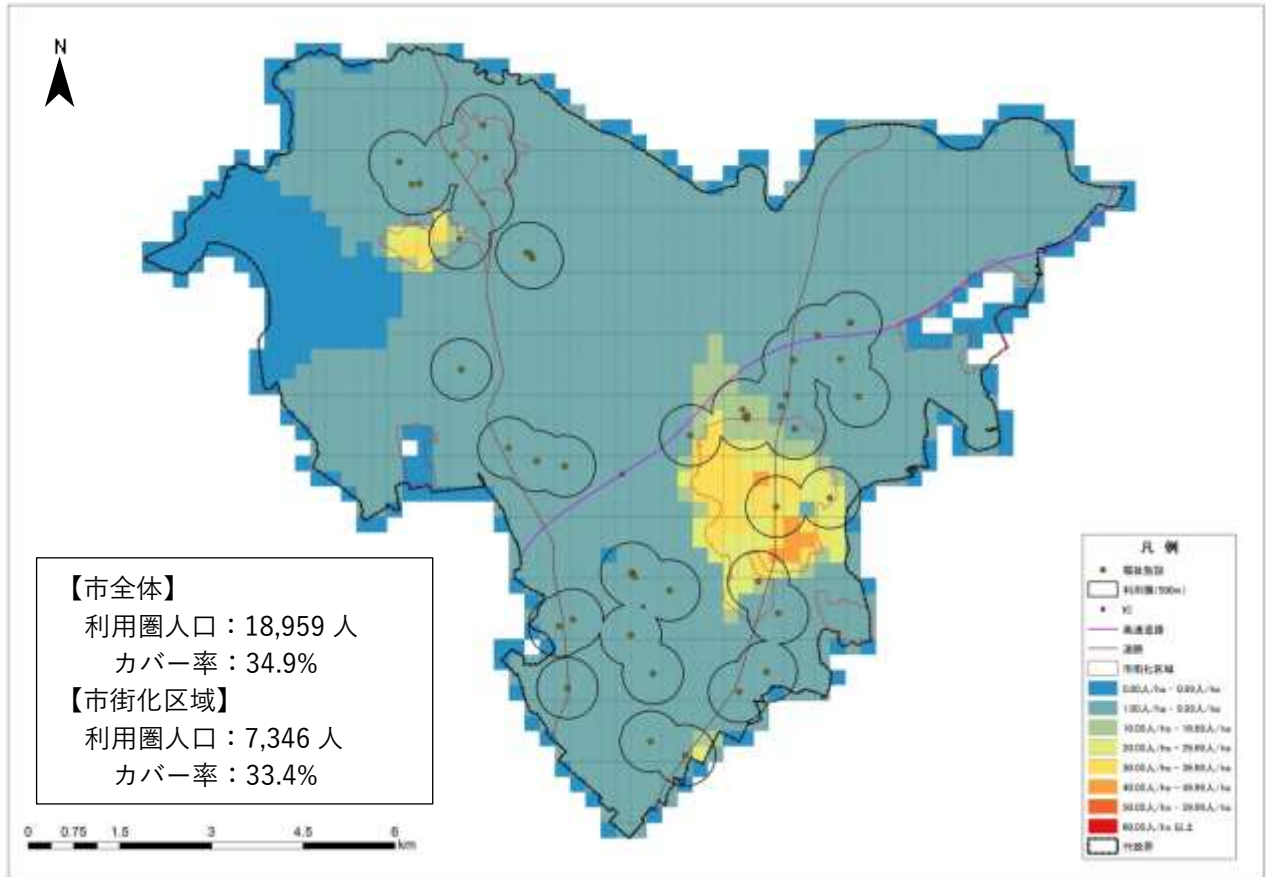
なお、バス路線については、コミュニティバスが運行されていた時点では、市街化区域に居住する人口の半数以上が徒歩でバスを利用できる環境となっていました。コミュニティバスの廃止に伴い 40.9%となっています。現在は代替の交通手段としてデマンドタクシーが運行され、市内各所からの移動手段として利用されています。

図－商業施設の人口カバー率



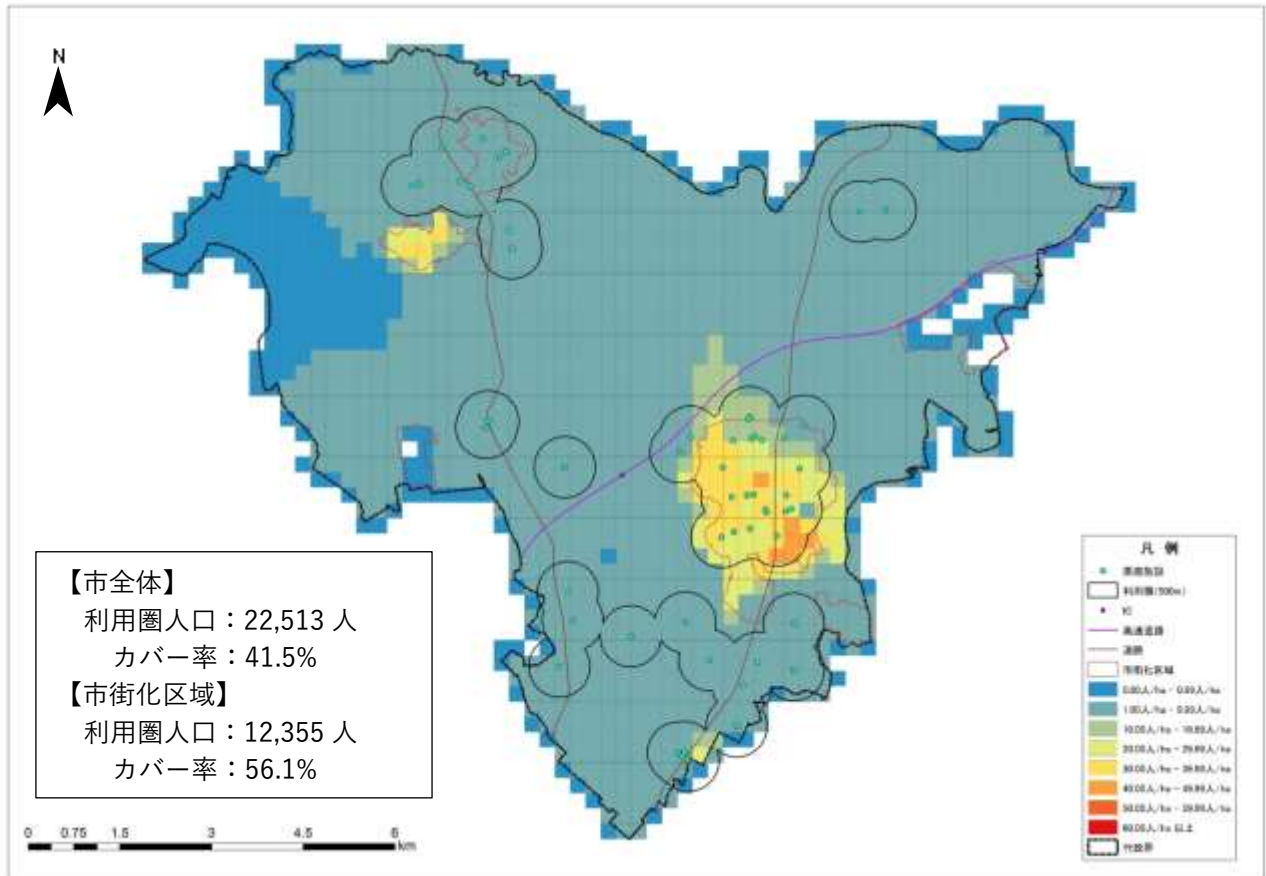
資料) 那珂市都市計画現況調査 (2019 年 (平成 31 年) 3 月) 一部修正

図－福祉施設の人口カバー率



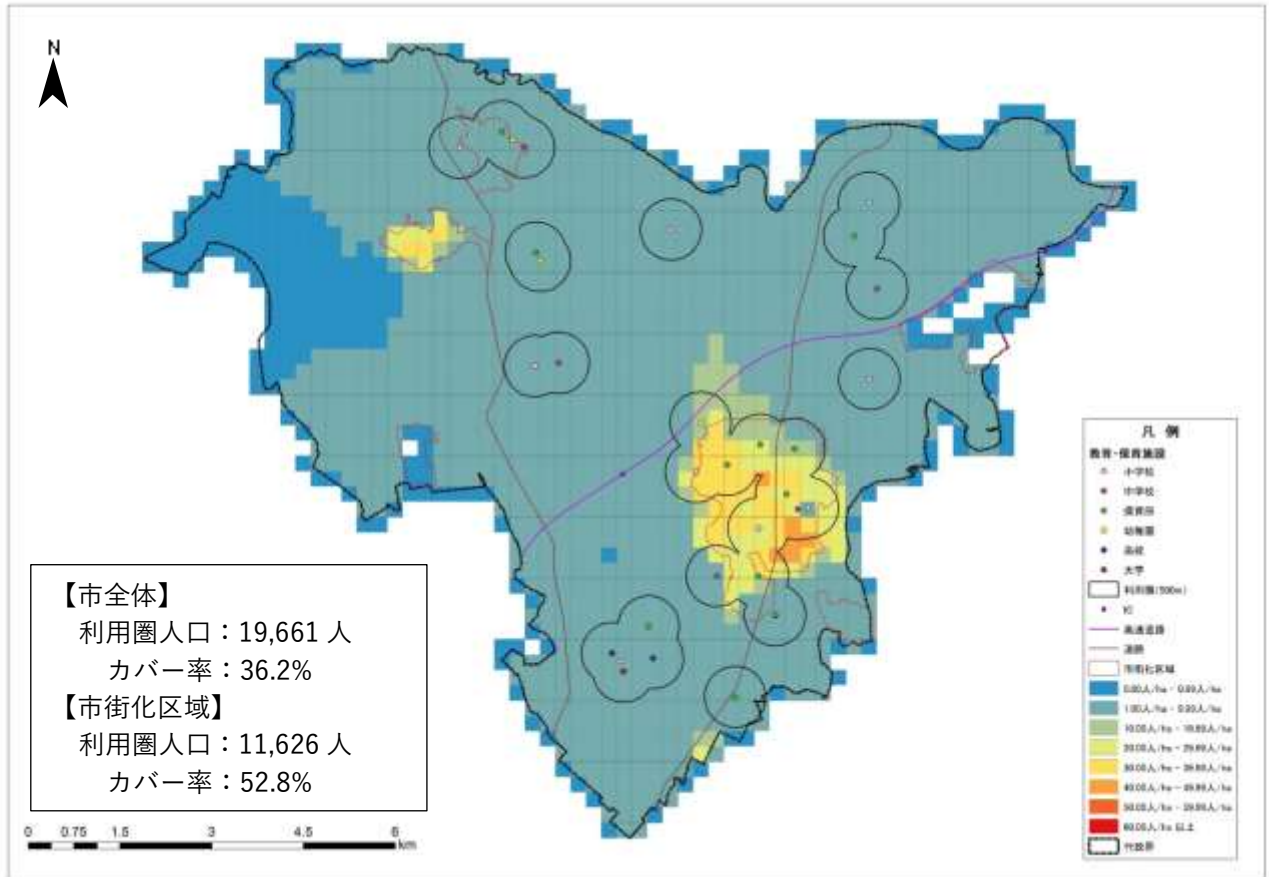
資料) 那珂市都市計画現況調査 (2019年(平成31年)3月) 一部修正

図－医療施設の人口カバー率



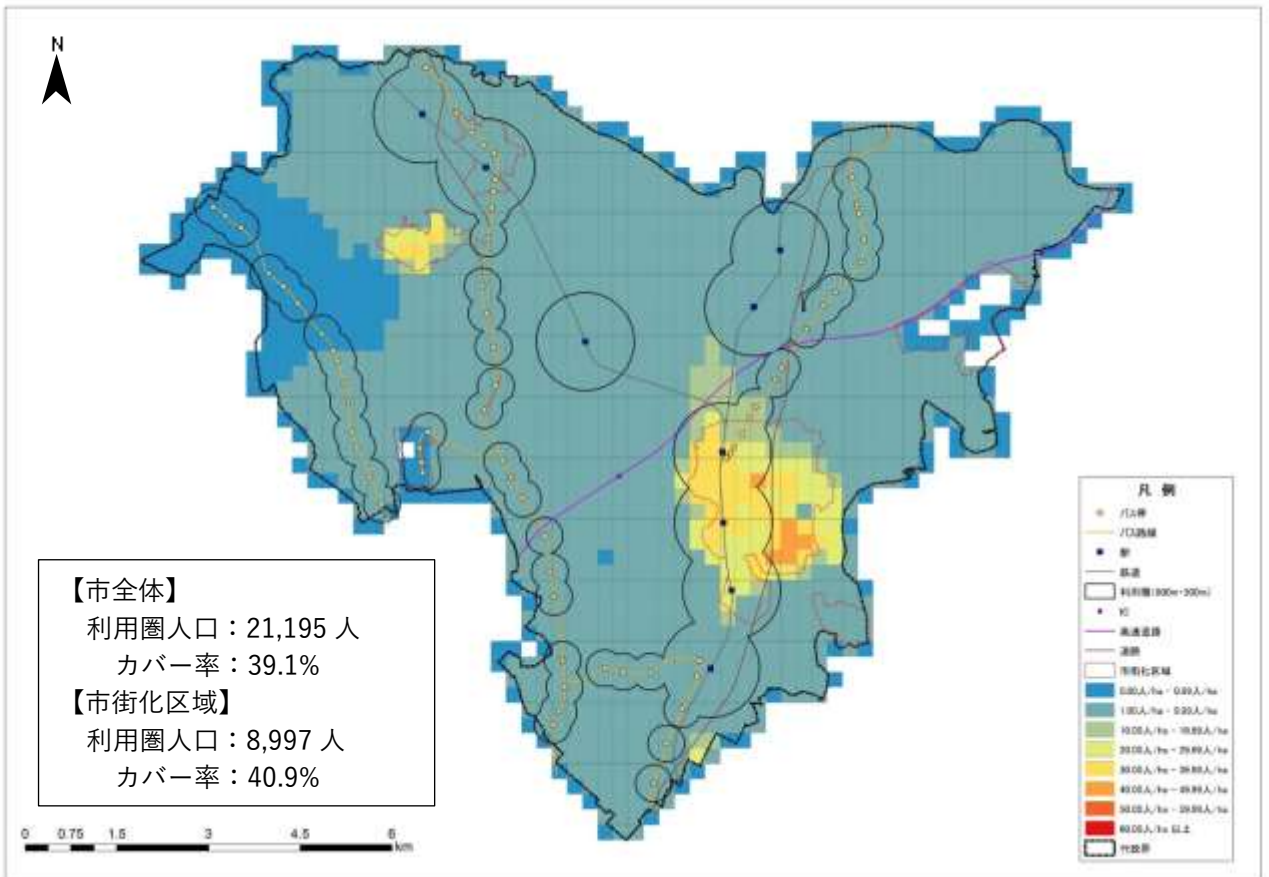
資料) 那珂市都市計画現況調査 (2019年(平成31年)3月) 一部修正

図－教育・保育施設の人口カバー率



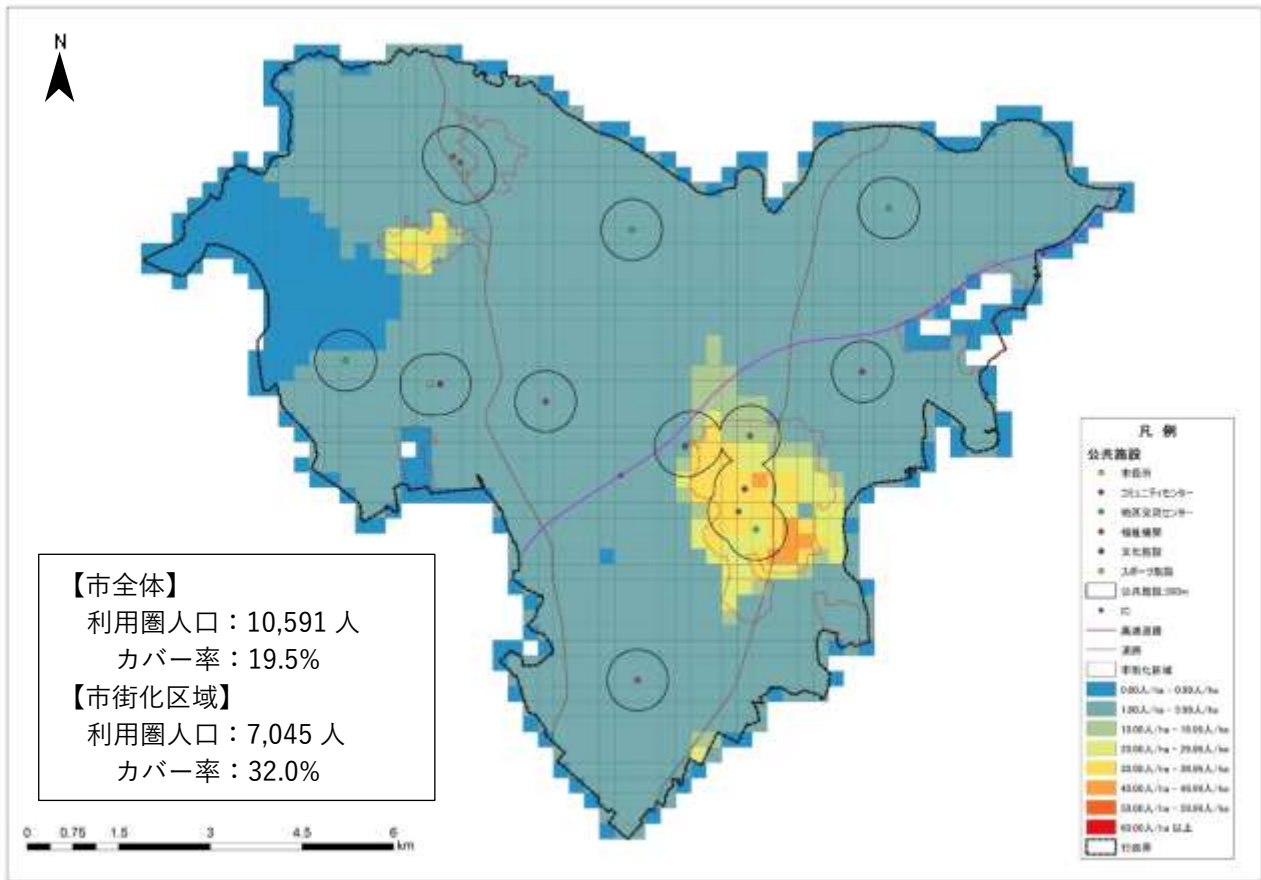
資料) 那珂市都市計画現況調査 (2019年(平成31年)3月) 一部修正

図－公共交通利用圏人口(駅800m・バス停300m圏)



資料) 那珂市都市計画現況調査 (2019年(平成31年)3月) 一部修正

図－公共施設利用圏人口カバー率



資料) 那珂市都市計画現況調査 (2019年(平成31年)3月) 一部修正